

令和7年4月21日【いただきます】

先日、下校時にある児童に「校長先生」と呼び止められ、何かなと思っていますと、手を前にして深々と「さようなら」と丁寧なおじぎをされました。とても上品で美しい挨拶に少し感動しました。ありがとうございました。

先週のお題ですが、いろいろな答えを聞かせていただきました。「ありがとうの意味を知らなかった」とか「ありがとうがいやな言葉だったから」などたくさんのお返事をいただきました。ありがとうございました。

「なぜ、モンゴルの人があるがとうと言わないのか」ということには、いくつか答えがあります。1つには、モンゴルの人とはとても友情の厚い人が多く、何か親切を受けたときに「ありがとう」という言葉だけでなく、行動や態度で示そうとします。校長先生が折り鶴をあげたモンゴルの子どもも、ありがとうは言わなかったのですが、かわりに自分が大切にしていたロボットのおもちゃをくれようとしていました。もう一つの考えとして、「ありがとう」と言うと、予め欲しがっていたみたいで、なんか折り鶴をおねだりしたみたいでいやらしいと言うのがモンゴル人の常識だそうです。だいぶ私たちの考え方とは違いますね。言われてみたらそうなのかなと思いますが、大事なことは「ありがとう」って言わないで良いのだとかではなくて、世界には実にいろいろな考え方をする人々がいるということを知って欲しいなと思ってこの話をしました。どれが良い、悪いではなく、みんな良いのです。みんな違って良いのです。

なお、皆さんは今日本に住んでいるわけですから、人に親切にされたときは、「ありがとう」と言える人になって下さいね。

さて、皆さんは給食を食べる前に、何と言ってから食べ始めますか？そう、「いただきます」と言いますよね。では、いったい何をいただいているのでしょうか。この「いただきます」という言葉にはどんな意味があるのか知っていますか？いったい、何をいただくのでしょうか？少し周りの人と相談してみてください。

実はこれはもともと仏教の言葉で、「命をいただきます」という感謝の言葉を縮めたものなのです。だから、いただきますというときには、どんな仕草をし

すか？

そう「手を合わせて」とかよく言いますよね。この手の平を合わせることを「合掌」といいます。よく考えたら、私たちの普段の生活の中で、合掌と言ったら、神社やお寺でお祈りをする時ですよね。合掌は仏教では思いやりを意味します。なぜご飯を食べる前にも手を合わせるのでしょうか。それは自分の命のために、相手の命への思いやりを込めて、手と手を合わせて合掌して「いただきます」というのです。

こうして私たちは、他の動物や植物の命をいただきながら、生きているのです。おいしいステーキは、牛の命を、パンは小麦という植物の命を、かまぼこは魚の命をいただいているのです。

「ご飯を食べる」と言う毎日繰り返しおこなっていることで、忘れがちなのですが、私たちは毎日誰か他の命をいただいて、自分の命を生きているわけです。牛や豚、魚や鶏は、もちろん野菜やパン、お米にも植物の命があるわけで、私たちは他の命を食べないで、食事することは難しいと思います。食べると言う事は、他の命をいただく、実に罪深いことなのです。そう思うと、牛さんや豚さん魚さん野菜さんの命をいただいている、それを残すというのは大変申し訳ないことだと言うことも頭の中には入れておいてください。

では最後に今週の宿題です。今言いましたように私たちは、「いただきます」と言って他人の命を自分の命のために食べるのですが、私たちの食べ物の中で、もともと生き物ではなかった、「命」がなかったものも少しだけあります。もともと生き物ではない食べ物ってどんなものがあるでしょうか。少し周りの人と相談してみてください。わかったよという人は、先週と同じように校長室前の紙に書きに来て下さいね。

今日も最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。